

注目ワード

- 新型コロナウイルス
- 新型コロナ 国内感染者数
- 新型コロナ 経済影響
- 気象
- オリンピック・パラリンピック
- 競技・選手
- IT・ネット
- アメリカ大統領選

LIVE

北海道 東北 北陸 暴風雪や大雪に警戒



# 新たに2論文でもねつ造・改ざん 臨床研究中止に

2021年1月30日 18時23分

大阪大学などに所属していた医師が発表した肺がんの治療などに関する論文が研究不正と認定された問題で、大学などは、新たに2つの論文にデータのねつ造などがあったと発表しました。論文は、実際の患者に薬を投与する臨床研究の根拠となっていて、大学などは研究の中止を決めました。





これは大阪大学と国立循環器病研究センターが会見を開いて明らかにしました。

新たに研究不正と認定されたのは大阪大学医学部附属病院に以前、所属し、国立循環器病研究センターの室長だった野尻崇医師が、2015年と17年に発表した2つの論文です。

論文は心臓から分泌されるたんぱく質を投与することで、肺がんの転移が抑制されると示していました。

大阪大学などが調べた結果、論文では手入力都合のよい数値を書き込むなど複数のねつ造や改ざんがあったと認定されたということです。

調査に対し、医師は「解析過程などでミスをしただけで故意ではない」などと説明したということです。

論文の1つは、大阪大学医学部附属病院が行った160人の患者に薬を投与する臨床研究の根拠となっていたことから、病院は研究の中止を決めました。

これまでのところ、患者に研究に関わる健康被害は出ていないということで、病院は患者に謝罪したということです。

この医師をめぐるのは、去年8月に別の5つの論文で研究不正が認定されていました。

大阪大学と国立循環器病研究センターは「このような事態が発生したことは誠に遺憾です。再発防止策を徹底し、適切な研究活動を推進していきます」としています。

